

## 2023 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 赤穂市立原小学校 ] 担当教諭名 [ 小野 真登 ] ( 6年1組 11名 )

相手国・地域 [ 台湾 ]

海外学校名 [ Ying-Qiao Elementary School ] 担当教諭名 [ Pei-Hsin Chen ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	特別の教科 道徳	太平洋の橋になりたい	1
	総合的な学習の時間	アートマイル国際協働学習	27

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Quality education leads us to a future of equality
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	性別を問わず、子どもからお年寄りまで、生涯を通して安心して学べるような質の高い教育の達成の先に、人も国も平等な豊かな世界が実現する。



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・台湾の児童と交流するにあたって、まず、相手国についての調べ学習を行った。同時に日本と赤穂についての紹介を発信することができた。これらの活動の流れにより、国際交流するときに大切なこと(相手を知ること、自分のことを発信すること)を、児童は体験的に理解することができた。</li> <li>・SDGsについての本格的な調べ学習が始まると、台湾で考えた問いについて、日本でも同じ問いについて児童が考えるなど、「台湾のみんなは～と考えていたのだけれども～」と相手意識をもって、比べながら学習を進めることができた。</li> <li>・主に「質の高い教育」「人と国の不平等」について学んできたが、児童からの提案で、「ジェンダー平等」の視点も入れながら学習を進めた。児童は疑問をもち、自ら問題設定を行うことで主体的に学習できたように思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台湾との日々のコミュニケーションが少なくなってしまうていた。無理なく計画的に進められる相互交流活動について、もう少し考えるべきであったように思う。持続可能な活動計画の重要性を感じた。</li> </ul>

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
・台湾の児童がICT機器を上手に使いこなしている様子や、英語を流暢に話す姿を見て、世界の教育の進み方、重点の置き方の違いを感じていた。違いがあることに気づき、視野を広げようという思いを強くしていた。	・台湾の教師から、交流活動の方法に関する提案を多数頂いた。国際交流の際の効果的なコミュニケーションについて、良い方法をたくさん知ることができた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	6月 7月	・SDG4、SDG5、SDG10についての調べ学習 ・台湾についての調べ学習 ・発信したい地域の魅力をまとめる	・SDGsの内容について今までより深く知ることができた。 ・台湾について初めて調べることができた。	総合6
共有 相手と意見交換	9月 10月	・調べ学習の成果を交換する ・ビデオ会議にてプレゼンテーションを行う	・台湾の人達と同じ考えのところは嬉しく感じた。異なる意見にも納得できた。	総合5 道徳1
融合 メッセージ作成	11月	・壁画にこめたい思いを交流し合う ・壁画の下書き案を考える	・学習したことから、生涯学習の大切さが伝わるものを絵に入りたい。 ・男女平等のメッセージをこめたい。	総合6
創造 壁画制作	12月	・壁画制作	・「台湾のみんなが書きやすいように」と相手意識をもって制作を進めていた。 ・台湾側が提案した図柄(龍山寺、タピオカ、チキン)について、検索するなどして調べ学習をしていた。	総合6
評価 振り返り 自己評価	2月 3月	・学習のふりかえり ・ビデオ会議にて感想の交流	・SDGsについて考え方が広がった。 ・国際交流の大切さを感じる事ができた。	総合4

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つけたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化を理解する力	4	・台湾についてさらに自主的に調べようとする児童がいた。
主体的に考え行動する力	3	・SDG5の視点も考えて調べていこうという提案が出るなど、自分たちで考えて学習を進めていきたいという意欲を感じるころは少なくなかったが、一年間を通して見ると評価は3~4の間だと感じた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	・自分がどう考えるか、相手がどう考えたのかを並べて見ることはできていたが、ひとつの事実に対して複数の視点をもって考えるところまではできていなかった。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	・初めての国際交流が刺激的な良い経験となっていた。
想いを表現する力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	・伝えたいメッセージを表現できたと達成感を感じていた。 ・共同制作の意義を理解し、相手意識をもって制作できた。